



Y.Machida

THE CHALLENGE CUP

第76回 チャレンジカップ (GIII)

1着 本賞 43,000,000円 付加賞 525,000円
2着 17,000,000円 150,000円
3着 11,000,000円 75,000円
4着 6,500,000円
5着 4,300,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、2024.9.7以降2025.9.7まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 ハンデキャップ

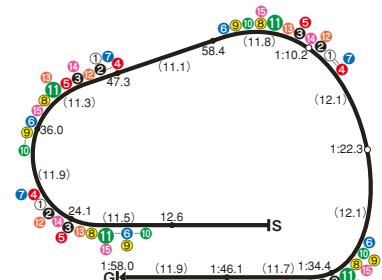
2025.9.13 阪神 暫・良 芝2000m (国際) (特指)

種 騒	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	コーナー	上り	馬体重	単勝	オッズ	調教師	レーティング
					(着差)	通過順位	(600m)	(増減)				
1 ⑪	オールナット	牡 4	56	J.モレイラ	1:58.0	11-9-10-9	34.5	524(±0)	4.7(2)	高野友和(栗東)	108	
2 ⑫	グラントヴィノス	牡 5	56	川田将雅	1	4-5-4-4	34.9	524(+4)	3.1(1)	友道康夫(栗東)	106	
3 ⑬	マイネルクリソーラ	牡 6	57	C.ルメール	クビ	4-3-4-4	35.0	470(+2)	12.1(4)	手塚貴久(美浦)	107	
4 ⑭	サブマリーナ	牡 4	57	武 豊	クビ	9-9-9-9	34.8	480(±0)	5.4(3)	庄野靖志(栗東)	107	
5 ⑮	イングランドアイズ	牡 5	54	松若風馬	クビ	7-6-7-7	34.9	450(±0)	12.9(5)	安田翔伍(栗東)	106	
6 ⑯	オニヤンコボン	驕 6	55	菅原明良	クビ	11-12-11-11	34.6	466(±0)	41.1(6)	小島茂之(美浦)	106	
7 ⑰	アスクカムオンモア	牡 4	56	西村淳也	クビ	3-3-3-3	35.2	494(-2)	16.9(8)	藤原英昭(栗東)	106	
8 ⑱	タガノデュード	牡 4	54	古川吉洋	1/4	6-6-6-4	35.3	492(-8)	17.3(9)	宮 徹(栗東)	106	
9 ⑲	ヴェルテンバヘルク	牡 5	55	吉村誠之助	クビ	7-8-7-7	35.2	482(+4)	22.6(10)	宮本 博(栗東)	106	
10 ⑳	ジユーンティイク	牡 4	57.5	藤岡佑介	%	13-14-14-13	34.5	504(+12)	14.5(6)	武 英智(栗東)	107	
11 ㉑	エアファンディタ	驕 8	57	亀田温心	クビ	13-13-15-15	34.5	446(-24)	116.8(9)	池添 学(栗東)	106	
12 ㉒	カネフラ	牡 5	54	小沢大仁	1/4	15-15-13-13	35.1	448(-4)	49.6(3)	高橋康之(栗東)	106	
13 ㉓	ドクタードリトル	牡 5	56	松山弘平	1	10-11-11-11	35.5	474(+12)	32.1(1)	今野貞一(栗東)	106	
14 ㉔	ホウオウプロサンゲ	牡 4	55	菱田裕二	6	2-1-1-1	37.9	496(-4)	16.1(7)	矢作芳人(栗東)	106	
15 ㉕	ショウナンマグマ	驕 6	55	池添謙一	3/4	1-2-2-2	38.3	500(-10)	202.3(9)	尾関知人(美浦)	106	

単勝①470円(2^) 複勝①180円(3^) ⑫140円(1^) ②270円(4^) 枠連⑥-⑦530円(1^)

馬連①-⑫910円(2^) ワイド⑪-⑫430円(2^) ②-⑪810円(5^) ②-⑫760円(4^)

馬単①-⑫1,830円(4^) 3連複②-⑪-⑫3,050円(3^) 3連単①-⑫-②12,720円(13^)



通過タイム : 600m 800m 1000m
上り : 800m 600m
通過タイム : 36.0 - 47.3 - 58.4 上り : 47.8 - 35.7

アラカルト

- J.モレイラ騎手はチャレンジC初勝利。JRA重賞は本年5勝目、通算18勝目
- 高野友和調教師はレイパバレーで制した20年に続くチャレンジC2勝目。JRA重賞は本年2勝目、通算30勝目
- サトノダイヤモンド産駒はJRA重賞通算4勝目
- 4歳馬の勝利は24年ラヴェルに続く通算33回目

オールナット *Allnatt*

牡 鹿毛 2021.2.17生

北海道白老町 (有)社台コーポレーション白老ファーム生産

馬主・(有)シルクレーシング 栗東・高野友和厩舎

馬名意味・有色な鮮黄色のダイヤモンドの名前。父名、母名より連想

父サトノダイヤモンド

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、仏18戦8勝(菊花賞G1、有馬記念G1、阪神大賞典G1、京都大賞典G1)、最優秀3歳牡馬、19年から供用
〔代表産駒〕サトノグランツ(京都新聞杯GII、神戸新聞杯GII)、シンリョクカ(新潟記念GIII)、オールナット(本馬)、サヴォンリンナ(忘れな草賞・L)、ピップディイジ(阪神ジュベナイルフィリーズG1 2着)、スズハローム(京王杯スプリングC GII 3着)、ダイシンラー(デイリー杯2歳S GII 3着)、ダイヤモンドハンズ(札幌2歳S GIII 3着)

母キューティゴールド

北海道白老町 (有)社台コーポレーション白老ファーム生産 中央5戦0勝。23年死亡
ショウナンバッカス(09 牡父フジキセキ)中央9戦1勝、地方2戦0勝

ショウナンパンドラー(11 牝父ディープインパクト)中央18戦5勝(ジャパン

C G1、秋華賞G1、オールカマーGII、糸魚川特別、宝塚記念G1 3着、ヴィクトリアマイルG1 3着、産経大賞典GII 3着)、最優秀4歳以上牝馬

イルミリオーネ(12 牡父マンハッタンカフェ)中央5戦1勝

スピアザゴールド(13 牝父ネオユニヴァース)中央25戦2勝、地方1戦0勝

ブルビネラ(14 牝父ヴィクトワールビサ)中央2戦1勝

ブルヴェルソン(15 牝父ダイワメジャー)中央11戦2勝

ボニーゴールド(16 牝父ディープインパクト)中央2戦0勝

セントオブゴールド(17 牝父ディープインパクト)中央14戦3勝(青嵐賞、山藤賞)

ローマンネイチャーレ(19 牝父ディープインパクト)中央2戦0勝

アイリーン(20 牝父ブラックタイド)中央5戦0勝

オールナット 本馬(21 牡父サトノダイヤモンド)中央12戦5勝(チャレンジ

C GII、嵯峨野S、大阪城S・L3着)獲得賞金105,236,000円

チャレジャット(22 牝父ロードカナロア)中央8戦1勝(フィリーズレビュー

GII 2着、NHKマイルC GII 3着)④

オーロアルジェント(23 牝父シルバーステート)④

※10(生後直死)、18、24(不受胎)

祖母ゴールデンサッシュ

北海道白老町 社台ファーム生産 中央0勝。12年死亡、**ステイゴールド**(香港ヴァーズG1、ドバイシーマクラシック・首G2、日経新春杯GII、日黒記念GII)、**レクレードル**(ローズS GII、クイーンS GIII)、**メルヴェイユドール**(マーメイドS GIII 3着)の母、**ドリームバースト**(神戸新聞杯GII、きさらぎ賞GIII、ジャパンC GII 2着、皐月賞GII 2着、菊花賞GII 2着)、**ペレーフ**(京成杯GIII)の祖母

ロイヤルサツシユGB系 F1-t	
サトノダイヤモンド 鹿毛 2013	ディープインパクト 鹿毛 2002
	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
キューティゴールド 栗毛 2004	マルベンサARG 鹿毛 2006
	Orpen Marsella
キューティゴールド 栗毛 2004	フレンチデビュティUSA 栗毛 1992
	Deputy Minister Mitterand
	ゴールデンサッシュ 栗毛 1988
	デイクタスFR ダイナサッシュ

5代までのインブリード: Halo S 4×S 5 Northern Dancer M5×M5

INTERVIEW

市橋晃 厥舎長(白老ファームYearling)

「いつか重賞を勝てる馬」と聞いていました

イヤリングに来た頃から見栄えのする馬体をしていました。その頃のサトノダイヤモンド産駒は緩さが見受けられる馬が多いですが、本馬はしっかりと動きで放牧地を駆け回っていました。体力面も豊富だったので、芝の長いところが合っていました。そうなイメージもありました。育成先の厩舎長からは「いつか重賞を勝てる馬」と聞いていましたが、それが叶えられました。



G1 2勝の名牝ショウナンパンドラーの半弟にあたる本馬は、2歳時の10月に京都でデビューし、骨っぽい相手(4着)メイショウタバル、5着ウォーターリヒト)を下して完勝。昨年暮れには2勝クラス戦に続いて3勝クラス特別を連勝し、オープン入りを果たした。昇級後の3戦はもうひとつ精彩を欠いたものの、札幌記念への出走が叶わず、目標を切り替えて臨んだ一戦でブレイクスルー。4歳の秋に重賞初制覇を果たし、良血開花を印象付けた。

過去10年間の優勝馬にレイパバー(2020年)、ベラジオオペラ(23年)と、のちのG1ウイナーが2頭名を連ねるチャレンジCは今年、従来の暮れの開催から秋開催へ移設。負担重量もハンデ(17~24年は別定)に改められた。1番人気に支持されたのは長期休養明けの3勝クラス特別を快勝した良血馬グラントヴィノス。しかしショヴァルグランをはじめ、兄姉に3頭のG1ウイナーを持つキタサンブラック産駒の前に、対抗候補と目されていたサトノダイヤモンド産駒オールナットが立ちちはだかった。

先手を主張したホウオウプロサンゲンに1コーナーでショウナンマグマが並んで、対抗候補と目されていたサトノダイヤモンド産駒オールナットが立ちはだかった。

激しく火花を散らした前の2頭は4コーナーで失速。直線に向くと3番手から差を詰めてきたアスクカムオンモアが先頭に立ち、グラントヴィノスがこれをかわしにかかる。4コーナーから追撃を開始し、坂下で2頭の背後に迫ったモレイラ騎手はその内にポッカリと開いたスペースを狙ってスパート。巧みなハンドリングに応え、鋭い末脚を繰り出したオールナットが、先頭へ突き抜けて勝負を決めた。

びかけ、2頭が雁行してレースを先導。前半から立て続けに11秒台のラップを刻んだ両馬をよそに、後続の各馬は自分のリズムを守って運び、グランヴィノスは離れた4、5番手を進む。オールナットのJ・モレイラ騎手は中国のインを追走。3番人気に支持された新潟大賞典の2着馬サブマリーナは、その外につけて仕掛けのタイミングを窺った。

鞍上に導かれ鋭い末脚で重賞初制覇